

「能登半島 里山里海自然学校」がめざすもの

能登半島には豊かな自然と長年培われてきた文化があります。しかし、「日本病」ともいえる地域の過疎化や高齢化は能登半島でも例外ではありません。担い手がいなくなることで、文化を育む土台である人々の共同体や自然が損なわれつつあります。手入れされなくなった里山が荒れ、かつて先人が心血を注いだ田畑はうっそうとした原野に戻ろうとしています。

こうした事情にかんがみ、金沢大学では三井物産環境基金の支援を受け、奥能登で活躍する多彩な人材と協力しながら、身近な自然である里山や里海の保全と再生、さらに環境に配慮した農林水産業を基盤とした地域振興策を提言していきます。その拠点として、石川県珠洲市の廃校となった小学校を再生し、「能登半島 里山里海自然学校」を開設しました。

この学校を自然と向き合う知恵を学ぶ場として整えたい。里山里海自然学校にはそんな願いが込められています。

里山里海人紹介



金沢大学「角間の自然学校」代表
「里山里海自然学校」運営委員長
中村浩二教授

いま、能登や加賀の広大な里山が過疎や高齢化の問題にあえいでいます。この問題に正面から取り組み、里山を活性化するための活動のひとつが、今回の「里山里海自然学校」の設立です。



「里山里海自然学校」常駐研究員
赤石大輔(理学博士)

私の専門はキノコです。奥能登の山々を研究フィールドとしてまわりたい。また、小中学生を対象にした環境教育にも力をいれます。

子どもたちが学ぶプログラム

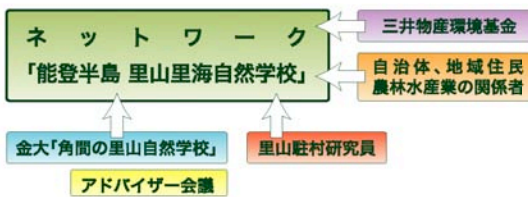
「里山里海自然学校 2006夏 能登教室」活動記録

輪島市門前町の里山と里海を舞台にNPO法人能登ネットワーク、金沢子ども科学財団等と連携して8月23日から二泊三日の日程で小学生30人が参加しました。海で釣った魚を干物にしたほか、天然塩づくり、星座やアリの観察などを行う自然観察や体験実習を行いました。今後も新たな企画を順次実施していく予定です。



環境に配慮した地域振興策の提言

【組織イメージ】



1、奥能登の人々の暮らしと自然、生業(なりわい)の「健康度」をはかるポテンシャル・マップの作成

☞ 地域の人々と里山駐村研究員、大学による参加型調査(企画、実施、データ収集、解析、まとめ)で、この調査を踏まえ、地域の潜在力や振興策を引き出す処方箋づくりを目指します。

2、地域の人々や関係団体、学生、大都市圏などのボランティアによる里山里海の保全活動

☞ 支援企業である三井物産の社員・家族も参加し、里山里海の保全活動を通して人々の交流をはかります。

3、地域の小中学校・高校や大学生、住民を対象に自然観察や体験実習を実施

☞ 人と自然のかかわりあいを理解することで、奥能登の自然の豊かさを再認識し、子どもたちの「科学する心」を養います。

4、金沢大学や他の研究機関と連携し、奥能登の地域活性化を担う次世代リーダーを養成

☞ アドバイザーや大学教員、駐村研究員、里山研究員と連携し、若手の農林水産業者や里山里海でベンチャー事業を試みる若者に情報とノウハウを提供します。

◎「能登半島 里山里海自然学校」の成り立ち

- 06年7月 三井物産環境基金の採択決定
- 8月 運営委員会の発足(委員長:中村浩二金大教授)
- 9月 金沢大学から常駐研究員の派遣決定

アドバイザー

2006年12月1日現在

鷲谷 いづみ	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
鬼頭 秀一	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
アルフォンス・カンパ	いしかわ国際協力研究機構所長
高峰 博保	石川地域づくり協会役員
辻井 博	石川県立大学生物資源環境学部教授
菊沢 喜八郎	石川県立大学生物資源環境学部教授
柳 哲雄	九州大学応用力学研究所教授
松田 裕之	横浜国立大学環境情報研究院教授
湯本 貴和	総合地球環境学研究所教授

運営委員

中村 浩二	金沢大学自然計画応用研究センター教授
成之坊 良輔	珠洲市教育長
中浦 政克	NPO能登ネットワーク専務理事
北風 八紘	※農業家・珠洲市在住
皆口 和寛	※農業家・珠洲市在住
大野 長一郎	※木炭製造業・珠洲市在住
山下 昌展	※「ぼんてん」代表・輪島市在住
星野 正光	※「手仕事屋」店主・輪島市在住
井池 光夫	※郷土史家・輪島市在住
高市 範幸	※「夢一輪船」店主・能登町在住
鍛冶 誠太郎	※「かじ旅館」経営・能登町在住
多田 喜一郎	※「春欄の里」代表・能登町在住
新谷 幸子	※草木染め作家・穴水町在住
美馬 秀夫	※石川県自然保護課担当課長
草光 紀子	※環境公営研究センター技師
上野 登紀男	小泊校下地域振興会会長
多田 進郎	珠洲市教育委員会学校教育課長
金田 直之	珠洲市企画財政課課長補佐
上梶 秀治	輪島市農林水産課長
滝上 雅之	能登町企画財政課課長補佐
国田 浩	穴水町産業建設課長
岡崎 善二	穴水町教育委員会事務局次長
依 幸嗣	石川県高等教育振興室長
川井 中	三井物産株式会社支店業務室長
佐川 哲也	金沢大学教育学部助教
川島 平一	金沢大学地域連携コーディネーター
宇野 文夫	金沢大学地域連携コーディネーター
赤石 大輔	里山里海自然学校・常駐研究員

※は、金沢大学が委嘱している里山駐村研究員、委員研究員、農林水産業などに従事しながら地域の活性化に取り組んでいる有識者。

いま、能登から「ふるさと」の原風景が急速に失われつつあります。限界集落という言葉を使われているように、現代の「日本病」は地方の過疎、高齢化です。優しき能登の人々の心と風景が残っている間に次世代を生き抜くための「知のプラットフォーム」をつくらう。大学も地域社会に学び、能登の新たな可能性と持続可能な社会を提案します。

自然と向きあい学ぶ「知のプラットフォーム」に

この自然学校を通して、地域の皆様が珠洲の自然の豊かさ、素晴らしい自然環境、自分たちの住んでいる場所に関わりを持って、今後の珠洲の活性化につながっていくものと期待しています。

奥能登半島 珠洲市 豊島



- ◎ 拠点施設を生かす
- 1、地域の住民、小中高生と大学の学生・研究者との交流の場
- 2、金沢大学のほか連携する大学の里山里海に関する調査研究の拠点
- 3、奥能登の自然と文化を継承・発展させ、地域振興の担い手となる人材を養成する教育施設

130年の歴史を持ちながら、2004年4月に廃校となった旧・珠洲市立小泊小学校の施設を珠洲市の支援を得て「里山里海自然学校」の拠点として再生しました。そして、以下の3点を目指します。

廃校を再生し拠点に

2005年9月、奥能登のアンコロウなど水生物の保全をテーマに金沢大学と東京大学の「21世紀COEプログラム」(文科省)は「里山と水辺環境を守るための協働シンポジウム」を珠洲市で共同開催しました。こうした学術交流の場として「里山里海自然学校」を活用します。

能登半島の先端に研究、教育、交流の拠点

里山里海自然学校(旧・小泊小学校)



「里山里海自然学校」の屋上から見える周囲の風景



【所在地】〒927-1462 石川県珠洲市三崎町小泊新111
 tel・fax: 0768-88-2528
 e-mail: info@satoyama-satoumi.com
 http://www.satoyama-satoumi.com/

◎ 交通アクセス
 金沢大学より車で2時間15分
 能登空港より車で珠洲市内へは約40分
 特急「エクスプレス」金沢駅より【能登空港経由】2時間50分



能登半島 里山里海自然学校

<http://www.satoyama-satoumi.com/>

